

大阪国語教育アセンブリー2015

—豊かな未来をつくることばの学び—

現代をことばの力で生き抜くために、ことばの学びをお互いに求めあう集まりです。多数ご参加ください。



画：川口麻里亜

- 日 時 平成 27 年 7 月 24 日（金）13:00～17:00
- 会 場 大阪府立今宮高等学校 多目的ホール・会議室 他
〒556-0013 大阪市浪速区戎本町 2-7-39 （TEL 06-6641-2612）
（地下鉄大国町駅より南 300 ㌢、JR・南海新今宮駅より北西 300 ㌢）
- 内 容 全体会 講演 内山節氏（哲学者）
分科会 「ことばがつくる豊かな世界」 5 分科会を開催
- 参加費 無料
- 主 催 大阪府高等学校国語研究会 大阪府立今宮高等学校

大阪国語教育アセンブリー2015 <開催要項>

—豊かな未来をつくることばの学び—

「大阪国語教育アセンブリー」は、ことばの教育について、広く自主的に研鑽しあう集会として、一昨年、誕生しました。初年度は「何のための国語教育か」、昨年は「対話が紡ぐことばの学び」をテーマとし、各方面から100名を超える方々にご参加いただきました。

今年度は、「大阪国語教育アセンブリー2015」として、「豊かな未来をつくることばの学び」をテーマに開催します。私たちがこの先に一つの生活を構想するとき、その構想を生み出し、支えるものはことばしかありません。そこに豊かな未来を見ようとするとき、ことばの豊かさが、その未来をつくる基礎となるのではないのでしょうか。

そうだとすれば、私たちはどのようにことばを学べばよいのか。「自然」「人間」「自由」をどうとらえ、どう関係づければよいのか。私たちにあって、「豊かさ」はどのようなものとして語ることができるのか。

「豊かなのに、豊かではないという現実がある」

哲学者の内山節氏のことばです。今年度は、その内山節氏をお招きし、「豊かさ」とは？また、ことばの学びを通して、私たちは豊かさをどう構築することができるのか？をテーマに講演していただく運びとなりました。さらに、講演をもとに、参加者みんなで、ことばが私たちの社会や未来を設計する可能性を探ろうと思います。

分科会は、「ことばがつくる豊かな世界」をテーマに、5つに分かれます。第1分科会では、内山節氏の講演を受けて、教科書教材となっている氏の作品にふれながら、現役の高校生も交えた討議ができればと考えています。また、第2から第5分科会では、現代評論、小説、古典、現代詩を通して、豊かなことばの学びの実践という視点から国語の授業について話し合うことができるよう企画しています。なお、分科会の後は再び全体で集まり、分科会での成果を共有します。

今年度も「自主的」「本質を問う」「参加者はことばの教育に関わるすべての人」「若い先生方にやさしく」などのコンセプトを継続させて開催します。国語科の教員に関わらず、ことばの教育に関心のある方々に広くお集まりいただけるような会にしたいと思います。お忙しいなかとは存じますが、なにとぞご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

大阪国語教育アセンブリー



■日時 平成27年7月24日(金) 13:00~17:00

■会場 大阪府立今宮高等学校 多目的ホール・会議室他

〒556-0013 大阪市浪速区戎本町2-7-39 電話 06-6641-2612

(地下鉄大国町駅より南300m、JR・南海新今宮駅より北西300m)

13:00~13:20	受付	
13:20~13:30	開会・概要説明	小山秀樹(今宮高校)
13:30~15:00	全体会 講演	「哲学と言葉」 —自然、自由という言葉をとおして— 内山節(哲学者) 進行 島崎英夫(本会理事長 清水谷高校校長)

●講演者紹介：内山節(うちやま たかし)：1950年東京生まれ。哲学者。内山節氏は、1970年代から東京と群馬県上野村を往復しながら生活をされています。自然と人間のあり方や時間論、労働論など、幅広い考察を著作で展開され、中学校、高等学校の国語教科書にも評論や随想として多数掲載されています。(教科書収載の著作を裏面にまとめました。是非ご覧ください。)

15:00~15:20	休憩・移動
15:20~16:20	分科会 ことばがつくる豊かな世界
第1分科会	〈ことばを深める〉 内山節氏の作品を読む 田中啓介(岸和田高校) 鈴木寿(箕面高校・指導教諭) 協力 森木乃美 ファサービ円アリーダ(奈良女子大学) 協議参加 現役高校生
▼全体会講演者である内山節氏の「結ばれていく時間」「自然と人間の間をとおして考える」等の教科書所収の評論を素材とし、「豊かさについて」や「私たちの生き方」について現場の先生方や現役高校生も交えての意見交換を行おうと考えています。	
第2分科会	〈ことばをつなげる・見つける〉 論者と私と私たち —グラフィックオーガナイザーを用いて— 永田里美(西寝屋川高校・大阪府教育センター) 司会進行 水山知春(阿倍野高校)
▼評論教材「安心について」(廣淵升彦)を取り上げます。「安心」の定義とは？グラフィックオーガナイザー(思考ツール)を用いて、その定義付けを試みたいと思います。抽象と具体、自己の認識世界と他者(論者)のそれとを往還する中で、定義され直すことばのあり方について考えます。	
第3分科会	〈ことばをよせる〉 授業で小説を読むことにとまどいながら 前川馨子(大阪国際大和田高校) 司会進行 音無幸子(懐風館高校)
▼小説を読むことは、人に見せたくない自分と向き合わざるを得ないという真摯な、でも、恥ずかしい体験だから、授業のたびにとまどいます。結局中途半端になって『山月記』は「虎になった男の話」。30年間とまどい続け、今回もまた、あがきました。	
第4分科会	〈ことばをつかむ〉 古典に親しむ —「枕草子」のことばから見えてくる世界— 会田博子(貝塚南高校・指導教諭) 司会進行 小股亜希子(大阪府教育センター附属高校)
▼教科書で馴染みの深い「枕草子」の教材を通して、古語を身近なことばとして捉え、現代版「ものはづくし」を作成します。「をかし」や「あはれなり」から作品の根底に流れる美意識や価値観について考えたいと思っています。	
第5分科会	〈現代詩という豊かさ〉 吉野弘「I was born」を読む 吉澤久良(高津高校・指導教諭) 司会進行 吉田正(清風高校)
▼詩には正しい読みというものはないかもしれませんが、より深い読みというものがあり得ると思います。意見交換を通じて、他者の読みに影響され揺らぎながら、イメージを豊かなものにしていく作業を試みます。実際の授業を想定した形で行います。	
16:30~17:00	全体会(分科会報告・連絡)・閉会

- 参加費 無料
 - 主催 大阪府高等学校国語研究会 大阪府立今宮高等学校
 - 協力 大阪府教育委員会
 - お申込み方法 別紙のFAX用紙か今宮高校HPよりお申し込みください。(〆切7/22)
 - お問い合わせ 大阪府立今宮高等学校 TEL 06-6641-2612 (FAX 06-6645-7608)
- 国語科 小山秀樹まで

内山節氏 現行教科書収載著作目録

(順不同)

- 1 情景のなかの労働 (『情景のなかの労働』有斐閣 1988)
東京書籍 新編現代文B
- 2 連帯という言葉の意味 (『怯えの時代』)
第一学習社 現代文B
- 3 時間をめぐる衝突 (東京新聞 2004.3.16 夕刊)
明治書院 新精選現代文、国語総合、精選国語総合
- 4 余暇について (『自由論 自然と人間のゆらぎの中で』1998)
三省堂 国語総合
- 5 ブナの森で (『森にかよう道』1994)
教育出版 国語総合
- 6 時間と自由の関係について (『自由論 自然と人間のゆらぎの中で』1998)
東京書籍 国語総合、精選国語総合 数研出版 国語総合
- 7 結ばれていく時間 (『戦争という仕事』2006)
筑摩書房 精選国語総合
- 8 自然と人間の間をとおして考える (『新環境学がわかる』1999)
大修館 国語総合
- 9 「おのずから」を感じ取る (信濃毎日新聞 2005.8.13)
東京書籍 現代文A
- 10 春
三省堂 明解現代文B